



Title	フォーラム「健康寿命を延ばそう～フレイルを予防して～」の開会挨拶
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見えるWHO. 2018, 66, p. 7-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86612
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

●日本 WHO 協会フォーラム「健康寿命を延ばそう～フレイルを予防して～」開催報告

フレイルは早期に発見し適切に介入をすることにより、生活機能の維持・向上を図ることが可能であり、国や自治体においても様々な取組みが始まっています。WHO でもヘルシーエイジング等の高齢者対策のなかでフレイルを取り上げています。(公社)日本 WHO 協会は、平成 30 年 3 月 5 日に大阪市立大学文化交流センターにおいて、フォーラム「健康寿命を延ばそう～フレイルを予防して～」を開催致しました。

フォーラム「健康寿命を延ばそう～フレイルを予防して～」の開会挨拶

日本WHO協会理事長 関 淳一

皆さん、こんにちは。本日は足元の悪い中をご参加いただき、誠にありがとうございます。本日のフォーラムのタイトルは「健康寿命を延ばそう～フレイルを予防して」。健康寿命とかフレイルというタイトルは最近のメディアでもよく使われるようになり、ご承知の方々も多いと思われますが、私はこの 2 つは今後の社会において非常に大事なキーワードになると思っています。健康寿命を簡単に言うと、自立して日常生活ができていきたいところへ行けること。人生はどんどん延びて 80 年人生、90 年人生といわれる時代に入っているわけですが、私は健康寿命の最晩年を妨げる因子の 1 つがフレイルではないかと思っています。本日は「フレイル」と「健康寿命」の意味をあらためて考えようということから、医学、歯学の最前線で今どんなことが考えられているか、定義づけられているかについて学びたいと思っております。健康寿命やフレイルはいわゆる

介護予防という社会的な意味でよく使われますが、私は当事者一人ひとりにとってこそ大事なことだと思います。最晩年を迎えるにしても介護にたよる時間をできるだけ短くして、自らの意思で生きていけるという健康寿命を一人ひとりが求め、そのために何をしたらよいのかをぜひ考えていただきたいと思います。本日はその最先端分野に携わり、同時に第一線で活躍しておられる 2 人の先生方に講演していただくことができました。葛谷先生、田中先生には大変お忙しい中にも関わらずフォーラムに来ていただき、ありがとうございます。参加された皆さんには本日の講演をお聞きいただき、ご自身の健康寿命を少しでも延ばすことにつながる何かの手掛かりを得ていただけるなら、主催者としてこれ以上の喜びはありません。最後までごゆっくりとお聞きいただきたいと思います。